

ハイライトよねやま 68

(財)ロータリー米山記念奨学会

2005年10月12日発行

1. 寄付金速報 ～ いよいよ米山月間です

9月までの寄付金は前年同期と比べ1.7%増、約630万円の増加でした。普通寄付金が0.7%増、特別寄付金が3.2%増と、前月に引き続いて3ヵ月間好調を維持しています。

10月の米山月間から12月までの3ヵ月間は、1年間の特別寄付金の約半額を入金いただいている大切な時期です。米山奨学事業に関わる皆様には、引き続き卓話などで米山事業に対する会員のご理解を深めていただきますよう、PR活動へのご協力をお願い申し上げます。

2. 米山月間特集：『ロータリーの友』10月号“よねやまだより”



『ロータリーの友』10月号の“よねやまだより”では、米山月間特集として、恒例の特別座談会を掲載しています。出席者は島津理事長、板橋監事、そして台湾セブンイレブン社長として経済界で著名な米山学友、徐重仁氏です。今回は、米山奨学事業が国際社会で果たしてきた人材育成の実績をふまえ、これらの人脈をより有効活用するための課題や今後の展望を語っていただきました。そのほか、寄付金や、奨学生数、新入生の情報を2ページにわたって掲載しています。ぜひご一読ください。
（『ロータリーの友』10月号 横組み p17～21）

3. 現役奨学生の期間延長プログラム（旧CY奨学金）について

博士号取得見込み者のための延長プログラムであったCY奨学金は、2006年4月採用から「クラブ支援ロータリー米山奨学金」として新たにスタートします。

「博士課程在籍者だけでなく、さらに上級課程へ進むために真摯に勉強する奨学生を延長支援したい」。ロータリアンからしばしば寄せられる要望にこたえ、申込み対象を拡大しました。

新しい応募資格は、2006年に3月終了する現役米山奨学生のうち、**A. 現在在籍している大学の上級課程に進学する者、もしくは、B. 1年以内に博士号取得見込みのある者**です。

しかし、対象が拡大したとはいえ、採用数には限りがあり※1、クラブ支援奨学生を多く採用するほど地区の新規採用数は減少します。応募の際には、世話クラブ、奨学生ともに責任と重要性に十分に認識し、ロータリー組織として延長支援に値するような、今後地区を代表する人材に成長する奨学生を推薦していただくよう、お願いいたします。

※1 「地区奨励奨学生」と合わせて地区採用数の20%以内

応募期限 2005年12月15日(2006年4月採用分)。すでにガバナー事務所を通じてeメールで各クラブへご案内しています。

合否 2006年3月初旬発表。
地区選考委員会が、被推薦者の優秀性やロータリー活動への協力度・貢献度を総合的に評価し、合否を決定します。

その他 世話クラブが延長期間の奨学金の半額を負担。
募集要項・申込書は、当会ホームページからプリントアウトできます。

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/> → [ダウンロードセンター](#) → [奨学生関連](#)

4. 南太平洋共同館で活躍したトンガの米山学友

9月25日に閉幕した愛知万博。外国館の一つである南太平洋共同館では、太平洋に点在する11カ国が共同出展しました。トンガ観光局に勤務する米山学友、エレノア・セニティラ・フオヌアさん* (2003-04/ハウステンボス佐世保)は、万博出展プロジェクトのスタッフに抜擢され、今年の3月から約半年間、会場近くの宿舎に寝泊まりしながら、母国の紹介に活躍しました。

*エレノアさんは『ロータリーの友』4月号“よねやまだより”に掲載されました



みなさん、お久しぶりです。1年ぶりにまた日本へ来ました。

南太平洋共同館では展示の紹介や来場者の質問に答えるなど、トンガの文化を紹介しています。また、万博をきっかけにトンガと友好都市になった尾張旭市の小学校や全農グループ、ロータリークラブ等へも10回以上トンガの紹介をしに行っただよ。

万博では、パビリオンに来る人のほとんどがトンガを知っていて嬉しかったです。昨年帰国してすぐ万博プロジェクトの一員に選ばれたので、息つく間もなく準備に追われ、カウンセラーや世話クラブの方々へ連絡もできず、本当に申し訳なく思っています。

日本語の出来るトンガ人は、現地では非常に少ないのです。

帰国したらまた観光局の仕事に戻りますが、残念ながら日本人観光客が少なく、日本と関わる機会があまりないので、トンガ出身の学友とコンタクトをとって、日本語、そしてロータリーのことを忘れないようにしたいです。

ぜひみなさんもトンガへ遊びに来てください！(8月28日ロータリー館にて取材)



5. 高専専攻科を指定校にしたことが新聞記事に！

2006年度制度改編の一環として、来年4月採用者から、学部課程奨学金の対象を高等専門学校専攻科にも拡大することが決定しています。第2640地区(大阪府南部・和歌山)はさっそく和歌山高専専攻科を指定校に選定し、このことが8月31日付の紀州新聞に掲載されました。「外国人留学生に朗報——和高専、米山奨学金指定校に」との見出しで、同校関係者の喜びのコメントや、米山奨学金の概要が紹介されています。

【神谷尚孝米山奨学委員長からのコメント】

和歌山県内の大学は3校で、全て県北部に所在しています。今回の制度改編で、国立和歌山高等専門学校(専攻科)を加えることができました。和高専は、紀伊半島中部の西海岸に位置する御坊市にあります。これで和歌山県南部のロータリークラブが、米山奨学事業をより身近に感じるチャンスを得ることができ、喜んでいきます。



事務局移転のお知らせ

米山奨学会事務局は、9月12日より新しい事務所へ移転しました。

【新住所】〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階

※電話番号・FAX番号・メールアドレス・ホームページアドレスは変わりません

(財)ロータリー米山記念奨学会 編集担当: 野津・大庭のおぼ
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
Tel: 03-3434-8681 Fax: 03-3578-8281
E-mail: highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL: http://www.rotary-yoneyama.or.jp/